

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月30日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21310154

研究課題名（和文） ロシアにおける宗教復興：公共機能、ライフヒストリー、空間動態

研究課題名（英文） Resurgence of Religions in Russia: Public Roles, Life Histories, and Spatial Dynamism

研究代表者

松里 公孝（MATSUZATO KIMITAKA）

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：20240640

研究成果の概要（和文）：ロシアの諸宗教を網羅的・多面的に研究した結果、宗教というプリズムを通じてロシア社会を観察することが可能であることが明らかになった。宗教の視点からは、ロシアはより広い地理的なまとまりの一部であり、キリスト教の「教会法上の領域」の観念、巡礼やディアスポラを含めて広域的な観点から分析する必要性が明らかになった。「脱世俗化」の傾向はロシアにも共通するが、その特殊な形態を明らかにする作業が行われた。

研究成果の概要（英文）：The comprehensive study of main religions in Russia made it clear that it is possible to analyze Russian society via the prism of religions. From the viewpoint of religions, Russia is only part of a much wider territory, so macro-regional approach is needed, including such issues as canonical territories in Christianity, pilgrimage, and diaspora. Our study revealed that Russia shares the worldwide tendency of de-secularization, but this tendency emerges with features specific for Russia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2010年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2011年度	2,700,000	810,000	3,510,000
年度			
年度			
総計	8,900,000	2,670,000	11,570,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：ロシア・スラブ地域、宗教

## 1. 研究開始当初の背景

本研究を準備した頃、共産主義体制崩壊後のロシアで宗教が重要な公共機能・政治機能を果たし始めたことに対する認識は研究者の間で共有されていた。しかし、伝統的に宗教研究は人文学的な視点から行われ（歴史、思想等）、社会科学者は宗教分析が苦手であった。特に研究者の政治イメージが貧困なため、宗教政治といえば政教関係（世俗政府と宗教組織の関係）しか連想されなかった。

さらに、正教、イスラームなどのこの宗教が個別に研究され、研究者間の横の連携がないため、宗教を通じてロシア社会を知る、つまり地域研究のツールとしての宗教研究という発想はなかった。

## 2. 研究の目的

上記のような状況を克服する為、本研究は、(1)ロシア社会で宗教が果たしている公共機能を多面的に分析することをめざした。こ

れは、現代宗教研究において通説化した「脱世俗化」命題を豊富化することにつながる。

(2)ロシアの4つの「伝統宗教」すなわち正教、イスラーム、チベット仏教、ユダヤ教のすべてと、異教(ペイガニズム)を網羅して、宗教研究の蝸壺性を克服する。宗教全般を把握することで、宗教をプリズムとしてロシア社会を考察することが初めて可能になる。

(3)本研究はロシアの現状分析としての宗教研究なので、現地調査、インタビューを重視する。特に宗教指導者・聖職者のライフストーリー(またそれがどう語られるか)を蒐集する。

(4)ロシアの主要宗教を網羅する概説書を出版する。

### 3. 研究の方法

(1)宗教の公共機能を示す従来あまり研究されていない争点を重視した。たとえばイスラーム政治の重要な構成要素としてのメッカ巡礼、新異教主義とロシアの民族主義・ファシズムとの関係、異教的オカルトにみる現代ロシアの社会心理、ロシア正教会が推進する女性の服装規制、良妻賢母運動などである。

(2)宗教運動の空間動態、空間認識を重視した。巡礼、ディアスポラ、移民、宗教ツーリズム、教会間の管轄問題などである。正教、イスラーム、ユダヤ教、仏教のいずれの視点からも、ロシアはより広い宗教共同体の一部である。

### 4. 研究成果

(1)3年間の期間を通じ、ロシアにおける宗教の多面的な公共・政治機能を明らかにすることができた。それは、藤原、井上が参加した『ロシア文化の方舟』(東洋書店、2011)の中にも反映されている。藤原は、現代ロシアにおいて呪術オカルトがはやるのはなぜかという問題設定から、『呪われたナターシャ』(人文書院、2010)を出版した。

(2)宗教の空間動態という観点からは、赤尾がディアスポラ研究を集团的に推進した。2009年刊行の『ディアスポラから世界を読む』(明石書店)は、ユダヤ人のみならず、アルメニア人(アルメニア使徒教会)、カルムイク人(仏教徒)等にまで視野を広げたものである。また長縄は、メッカ巡礼の問題を歴史と現状から、しかもヴォルガ地域と北コーカサスを覆う比較の視点から研究し、新しいジャンルを築きつつある。

(3)松里は、露・中・印・土のイスラム宗務制度の比較をした。初期的なアイデアは、東北大の澤江史子との共著により *Religion, State & Society* に2010年に掲載されたが、その後も研究をつづけた。イスラム宗務制度は、正教・カトリックとは違って特定の固定された組織形態を持たないので、いかなる政治体

制にも適応できる。逆に言えば、イスラム宗務制度をプリズムとして、当該政治体制の性格を知ることができる。

(4)研究目的の大きな柱であった概説書の発行については、厳しい出版状況から、いまだ見通しが立っていない。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計23件)

(1)Norihiro Naganawa, “The Hajj Making Geopolitics, Empire, and Local Politics: A View from the Volga-Ural Region at the Turn of the Nineteenth and Twentieth Centuries”, *Alexandre Pappas, Thomas Welsford, and Thierry Zarcone, eds., Central Asian Pilgrims: Hajj Routes and Pious Visits between Central Asia and the Hijaz* (Berlin: Klaus Schwarz Verlag), 2012, pp. 168-198, 査読無

(2)Norihiro Naganawa, “Holidays in Kazan: The Public Sphere and the Politics of Religious Authority among Tatars in 1914”, *Slavic Review*, 71: 1, 2012, pp. 25-48, 査読有

(3)赤尾光春, 「「根なし草」と「肉体の主」: M・Y・ベルディチェフスキーとユダヤ文化革命の両義性」、園府寺司・伊東信宏・三谷研爾編『コンフリクトのなかの芸術と表現: 文化的ダイナミズムの地平』(大阪大学出版会)、2012、305-329頁、査読無

(4)井上まどか, 黒川知文, 小杉末吉(共同執筆), 「第2章 ロシア」、『海外の宗教事情に関する調査報告書』(文化庁)、2012、69-135頁、査読無

(5)Kimitaka Matsuzato, “Transnational Minorities Challenging the Interstate System: Mingrelians, Armenians, and Muslims in and around Abkhazia”, *Nationalities Papers*, 39: 5, 2011, pp. 811-831, 査読有

(6)井上まどか, 「ロシアにおけるオウム真理教の活動」、『情報時代のオウム真理教』、2011、385-405頁、査読無

(7)井上まどか, 「ロシア連邦におけるキリスト教の興隆: ポスト社会主義ロシアにおける『宗教復興』」、『第39回 SGRA フォーラムポスト社会主義時代における宗教の復興』(SGRA レポート)、No. 0057, 2011、15-27頁、査読無

(8)井上まどか, 「現代のロシア正教会における女性像」、『宗教と社会』、第18号、2011、印刷中、査読有

(9)Fujiwara, Junko, “Rediscovery of the ‘Reality’ of Magic: Revival of Magic in Post-Socialist Russia”, *Inner Asia*, 12: 1, 2011, pp. 143-156, 査読有

(10)藤原潤子, 「現代ロシアの呪術リバイバ

ル」、野中進他(編)『ロシア文化の方舟：ソ連崩壊から20年』(東洋書店)、2011、72-81頁、査読無

(11) Kimitaka Matsuzato、"South Ossetia and the Orthodox World: Official Churches, the Greek Old Calendarist Movement, and the So-called Alan Diocese", *Journal of Church and State*, 52: 2, 2010、pp. 271-297、査読有

(12) Kimitaka Matsuzato & Fumiko Sawae、"Rebuilding a Confessional State: Islamic Ecclesiology in Turkey, Russia and China", *Religion, State and Society*, 38: 4、2010、pp. 331-360、査読有

(13) Kimitaka Matsuzato、"Cultural Geopolitics and the New Border Regions of Eurasia", *Journal of Eurasian Studies*, Vol 1, 2010、pp. 42-53、査読無

(14) Kimitaka Matsuzato、"Inter-Orthodox Relations and Transborder Nationalities in and around Unrecognised Abkhazia and Transnistria", *Religion, State and Society*、37: 3, 2009、pp. 239-262、査読有

(15) 赤尾光春、「東西ヨーロッパ世界における「ユダヤ人信仰」の痕跡を辿る—トラフテンベルク『悪魔とユダヤ人』(1943)とアンスキー「文化の相互影響」(1923)をめぐる」、伊東信宏、園府寺司、三谷研爾編『交錯するアート・メディア』、2010、136-150頁、査読無

(16) 長縄宣博、「帝政ロシア末期のワクフ：ヴォルガ・ウラル地域と西シベリアを中心に」、『イスラム世界』、73号、2009、1-27頁、査読有

(17) 荒井幸康、「3度目で最後の大陸に至るまで：カルムイク・ディアスポラの400年」、『ディアスポラから世界を読む』(明石書店)、2009、114-130頁、査読無

[学会発表] (計43件)

(1) 藤原潤子、「現代ロシアにおける新異教主義」、国立民族学博物館共同研究会「内陸アジアの宗教復興：体制移行と越境を経験した多文化社会における宗教実践の展開」、2012年2月25日、国立民族学博物館(大阪府吹田市)

(2) 井上まどか、「『良妻賢母』の登場—ポスト社会主義のロシア正教会の女性像—」、日本宗教学会第70回学術大会、2011年9月3日、関西学院大学(兵庫県西宮市)

(3) 松里公孝、「Типология управления мусульманами в неарабских перифериях: Турция, Россия, Индия и Китай (非アラブ辺境におけるムスリム行政の類型論：トルコ、ロシア、インド、中国)」、3rd East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies、2011年8月28日、ランドマークホテル(北京・中国)

(4) 赤尾光春、「「肉体の主」(ba'al guf)と「根

なし草」(talush)のはざまで—ミハ・ヨセフ・ベルディチェフスキーとユダヤ精神革命の両義性」、京都ユダヤ思想学会、2011年6月11日、京都大学

(5) Kimitaka Matsuzato、"Faith or Tradition: The Armenian Apostolic Church and Community-Building in Armenia and Nagorny Karabakh", The 16th Association for the Study of Nationalities Annual Convention、2011年4月16日、Columbia University (USA)

(6) Norihiro Naganawa、"Russia's Muslim Mediators in Arabia, 1890s-1930s: Some Thoughts on a Research Agenda", Muslim Identities and Imperial Spaces: Networks, Mobility, and the Geopolitics of Empire and Nation (1600-2011) (招待講演)、2011年4月7日、The Center for Russian, East European, and Eurasian Studies、Stanford University (USA)

(7) Norihiro Naganawa、"Who were Tatar Intellectuals? A Reappraisal in the contexts of the Russian Empire, Islamic World, and Local Politics", International Conference, "The Formation of National Intellectuals and the Development of University Network in the Regions under the Rule of Russian Empire", 2011年3月14日、Finnish Literature Society (Helsinki, Finland)

(8) Norihiro Naganawa、"The War on Pan-Islamism in the Multi-Confessional Setting of Russia's Volga-Urals Region, 1905-1917", IAS 3<sup>rd</sup> International Conference: New Horizons in Islamic Area Studies、2010年12月18日、京都国際会議場(京都府)

(9) 高橋沙奈美、「Совместное управление Успенским собором г. Владимира: история борьбы или открытие нового мира」、XVII Санкт-Петербургских религиозно-искусствоведческих чтений «Памятники сакрального искусства в контексте современности」、2010年12月1日、Государственный музей истории религии(サンクトペテルブルグ、ロシア)

(10) Norihiro Naganawa、"A Mirror of Imperialism? Muslim Mediators for the Russian Empire and USSR in Arabia, 1890s-1930s", The 42nd Annual Convention of ASEES (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies)、2010年11月19日、Westin Bonaventure (Los Angeles, USA)

(11) Kimitaka Matsuzato、"Transnational Minorities Challenging the Interstate System: Mingrelians, Armenians, and Muslims in and around Semi-recognized Abkhazia", International Conference on the Modernization of Russia and Eurasia: Challenges and Opportunities (招待講演)、2010年11月13日、国立政治大学(台北、台湾)

(12) Takahashi, Sanami、"On the Role of

Media for Atheistic Propaganda in the Case of Vladimir Region”、International Conference, Religion and Media: Transcultural Perspectives (招待講演)、2010年11月3日、Friedrich-Alexander-University(エルランゲン、ドイツ)

(13) 高橋沙奈美、 “Образы Русской Православной Церкви в атеистическом обществе”、Международная конференция “Маргиналии-2010”、2010年9月27日、Каргопольский государственный историко-архитектурный и художественный музей (カーリガポリ、ロシア)

(14) 井上まどか、 「現代のロシア連邦における公教育と宗教」、日本宗教学会第69回学術大会、2010年9月5日、東洋大学(東京都)

(15) Madoka Inoue、 “The Continuity of Discontinuity: Discourses on Shamanism in Post-Soviet Siberia”、IAHR (International Association for the History of Religions) 20th World Congress、2010年8月20日、トロント大学 (カナダ)

(16) Kimitaka Matsuzato、 “Canonization, Obedience, and Defiance: Strategies for Survival of the Orthodox Communities in Transnistria, Abkhazia, and South Ossetia”、The 8<sup>th</sup> ICCEES (国際中東欧研究学会) World Congress、2010年7月28日、Stockholm City Conference Centre(Sweden)

(17) Norihiro Naganawa、 “An Embryo of Civil Society? Philanthropy and War among the Muslims in the Volga-Urals Region”、The 8<sup>th</sup> ICCEES World Congress、2010年7月27日、Stockholm City Conference Centre(Sweden)

(18) Takahashi, Sanami、 “Interpretation of the Russian Orthodox in Soviet Atheistic Society, 1965-1985”、ICCEES VIII World Congress、2010年7月28日、Stockholm City Conference Centre(Sweden)

(19) 井上まどか、 「現代ロシアにおける宗教教育の展開——宗教教育をめぐる言説分析」、 「宗教と社会」学会第18回学術大会、2010年6月5日、立命館大学(京都府)

(20) 長縄宣博、 “Политика благонадежности: борьба с панисламизмом и ее последствия в многоконфессиональном Волго-уральском регионе, 1905-1917”、国際学会 “Исповеди в зеркале: межконфессиональные отношения в центре Евразии, на примере Волго-Уральского региона (XVIII-XXI вв.)” (招待講演)、2010年5月27日、State University of Linguistics in Nizhnii Novgorod(Russia)

(21) Takahashi, Sanami、 “The State Historical Museum of Religion and Atheism and the Soviet

Secularization Experiment in the late socialist Russia”、VIII Ежегодная конференция Московского Религиоведческого Общества «Религия и медиа»、2010年5月13日、Московский государственный университет имени М.В. Ломоносова(МГУ) (モスクワ、ロシア)

(22) 松里公孝、 「非アラブ辺境におけるイスラム行政の類型論：トルコ、ロシア、インド、中国」 (ロシア語)、第11回国際コンフェレンス「良心の自由：国際的標準と各国の実例 (ロシア極東とアジア太平洋諸国)」 (招待講演)、2010年4月20日、ゼヤ・ホテル (ブラゴヴェシチェンスク、ロシア)

(23) 長縄宣博、 「帝国とイスラーム・ネットワーク：欧露のイスラムの場合 (19世紀後半から20世紀初頭)」、比較教育社会史研究会2010年春季大会、2010年3月27日、同志社大学(今出川キャンパス)

(24) 赤尾光春、 「東欧ユダヤ人街 (シュテットル) の空間認識論について」、比較都市学国際シンポジウム「都市とユダヤ性」、2010年3月12日、明治大学

(25) Kimitaka Matsuzato、 “South Ossetia and the Orthodox World: Official Churches, the Greek Old Calendarist Movement, and the So-called Alan Diocese”、2nd East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies、2010年3月4日、Hotel Seoul Kyo Yuk MunHwa HoeKwan (Korea)

(27) Junko Fujiwara、 “Rediscovery of the ‘Reality’ of Magic: Revival of Magic in Post-Socialist Russia”、2nd East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies、2010年3月5日、Hotel Seoul Kyo Yuk MunHwa HoeKwan (Korea)

(28) Madoka Inoue、 “Religious Education in Contemporary Russia”、2nd East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies、2010年3月4日、Hotel Seoul Kyo Yuk MunHwa HoeKwan (Korea)

(29) Kimitaka Matsuzato & Fumiko Sawae、 “Rebuilding a Confessional State: Islamic Ecclesiology in Turkey, Russia, and China”、The international symposium, “Comparing the Politics of the Eurasian Regional Powers: China, Russia, India, and Turkey”、2009年12月13日、Hosei University(Tokyo)

(30) Kimitaka Matsuzato、 “Cultural Geopolitics and the New Border Regions of Eurasia”、The international conference “Eurasianess and National Identities in the Post-Soviet Era”、2009年6月18日、Hanyang University(Korea)

(31) Norihiro Naganawa、 “Muslim Travelers and Empire: Local Politics and World Order in Late Imperial Russia”、Junior Scholars Training

Workshop “Mobility in Russia and Eurasia”、  
2009年6月17日、University of Illinois at  
Urbana-Champaign(Urbana,USA)

〔図書〕(計8件)

- (1)赤尾光春・早尾貴紀編、臼杵陽監修『シオニズムの解剖——現代ユダヤ世界におけるディアスポラとイスラエルの相克』、人文書院、2011年、371頁
- (2)井上まどか、野中進、ヴァレリー・グレチュコ、三浦清美(共同編集)、『ロシア文化の方舟——ソ連崩壊から20年』、東洋書店、2011年、408頁
- (3)藤原潤子、『呪われたナターシャ：現代ロシアにおける呪術の民族誌』、人文書院、2010年、270頁
- (4)長縄宣博、D.M. Usmanova, 濱本真実(編著)、Волго-Уральский регион в имперском пространстве: XVIII-XX вв.、ロシア科学アカデミー出版社 «Vostochnaia Literatura»、2011、343頁
- (5)赤尾光春・早尾貴紀編、臼杵陽監修『ディアスポラから世界を読む——離散を架橋するために』、明石書店、2009、464頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等  
無し

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

松里 公孝 (MATSUZATO KIMITAKA)  
北海道大学・スラブ研究センター・教授  
研究者番号：20240640

### (2)研究分担者

長縄 宣博 (NAGANAWA NORIHIRO)  
北海道大学・スラブ研究センター・准教授  
研究者番号：30451389  
赤尾 光春 (AKAO MITSUHARU)  
大阪大学・大学院人間科学研究科・特任助教  
研究者番号：90411694  
藤原 潤子 (FUJIWARA JUNKO)  
人間文化研究機構・総合地球環境学研究所・  
上級研究員  
研究者番号：80462208  
井上 まどか (INOUE MADOKA)  
清泉女子大学・文学部・講師  
研究者番号：70468619  
(H21：連携研究者)

### (3)連携研究者

荒井 幸康 (ARAI YUKIYASU)  
北海道大学・スラブ研究センター・GCOE 共  
同研究員  
研究者番号：80419209

### (4)研究協力者

高橋 沙奈美 (TAKAHASHI SANAMI)  
筑波大学・人文社会科学研究所・学振特別研  
究員 (PD)  
研究者番号：無し